

# 1 レッスンを通しての「導入」「内容理解」「表現活動・定着活動」に関する様々な指導事例

## 1 生徒の実態及び課題の設定～英語に関する事前アンケート結果から～

### (1)事前アンケート

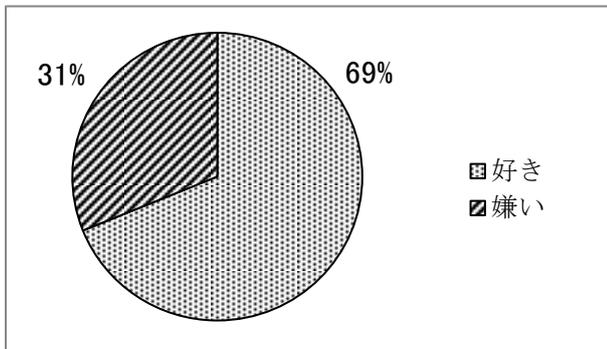
6月末に英語学習に対する意識を調査するために、以下の項目でアンケートを実施した。今回アンケート対象は、第2学年45名である。英語Ⅱを3単位、ライティングを3単位履修している。

#### <実施したアンケート項目>

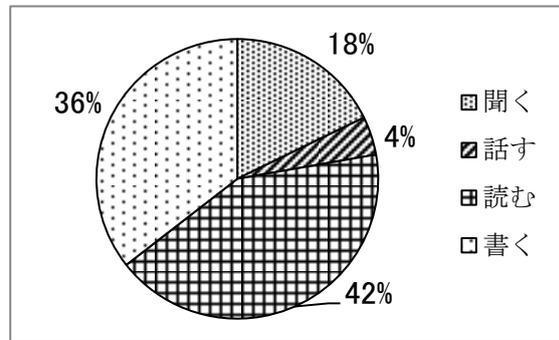
- 1 あなたは英語が好きですか？
- 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なことは何ですか？
- 3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なことは何ですか？
- 4 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために授業を英語で行うことについて、あなたはどのように思いますか？  
 ①先生がたくさん英語で質問したり、説明したり、指示をしたりすることについて。  
 ②自分が英語で質問に答えたり、ペアワークをしたり、発表をしたり、意見を書いたりすることについて。
- 5 英語の授業の中でどのようなことをしてほしいですか。(自由記述)

#### <アンケート結果>

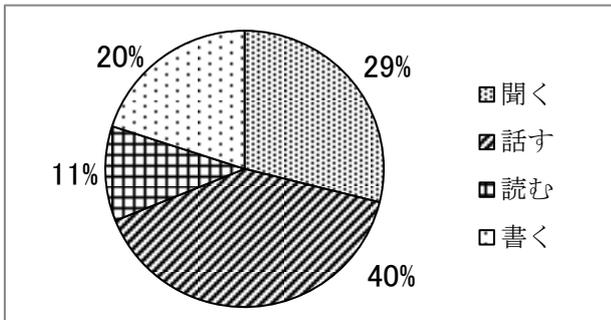
1について



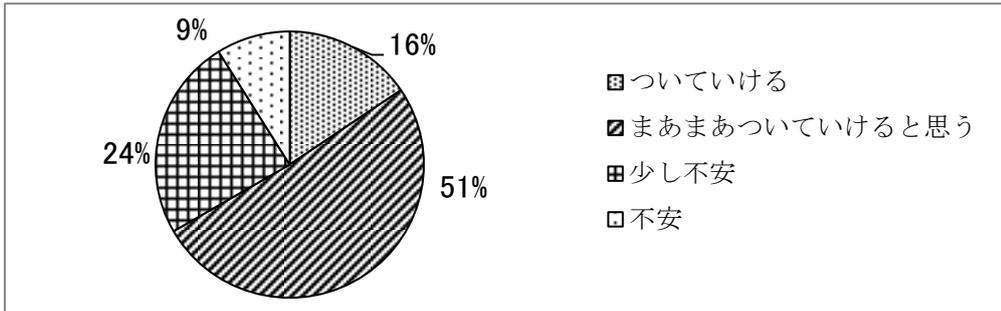
2について



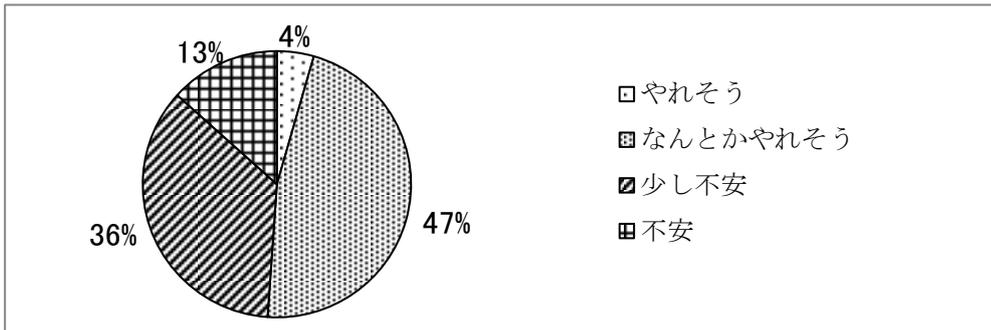
3について



#### 4①について



#### 4②について



#### 5について<主なものを抜粋>

- ・ 1年生の時にやっていた絵を描いての発表。(絵を用いての **Story Retelling**)
- ・ 1年生の時にやった、自分達で内容をまとめて、覚えて発表すること。
- ・ 何かテーマを決めて、それについて英語で話すこと。
- ・ 長文を読むこと。
- ・ 英語でのコミュニケーション、日常会話。
- ・ 進研模試などの長いリスニングでも聞き取れる練習。
- ・ リスニングの問題。
- ・ 速読。
- ・ 文法の練習。

アンケート集計の結果、約7割の生徒が英語を「好き」と回答している。「読む」ことを得意とする生徒が42%、「書く」ことを得意とする生徒が36%であった。一方、苦手なことは「聞く」こと(29%)、「話す」こと(40%)で全体の約7割を占めた。授業では、和訳や音読の活動が多く、英語を話したり、英語を聞いたりする活動が少ないことが理由であると考えられる。教師が英語を使用することに対して全体の67%が「ついていける」「まあまあついていけると思う」と前向きな回答をしているが、4②の自分が英語を使用することに対しては51%とやや数値的には減少する。「聞く」ことや「話す」ことに苦手意識があるためではないかと考える。やりたいことでは、1年生の時に実施していた絵を用いての **Story Retelling** と記述した生徒が何人もいた。

#### (2) アンケートから考える課題と到達目標

今回のアンケートでは「聞く」ことと「話す」ことを苦手とする生徒の割合が多かった。英語でのコミュニケーション力を身に付けさせるためには、これは大きな課題と考える。

まずは、教師の英語での発話をさらに増やしたり、本文の内容理解において英問英問などを取り入れたりしながら「聞く」ことに慣れさせ、苦手意識を減らす工夫をすることにした。また、ペアワークやグループワークを多く取り入れ、話さなければならない場面を設定することで、「話す」ことへの抵抗を減らしたいと考えた。

生徒から「Story Retelling をやりたい」という意見が多くあったことから、絵を用いながら Story Retelling 形式での発表や、本文の内容を基にした意見発表を実施することを最終的なゴールとして生徒に具体的に示した。その目的に向かって一つのレッスンの中で段階的な指導を行うことで、「話す」ことや「聞く」ことに必然性を与え、生徒に自然に話す力や聞く力を身に付けさせることを到達目標とした。

## 2 本研究の流れ

本研究では、Lesson 2 と Lesson 3 において、「導入」「内容理解」「表現活動・定着活動」において、パートごとに段階的指導をしていくことを意識しながら、下表にある流れで一つのレッスンの指導をした。

使用教科書：UNICORN ENGLISH COURSE II（文英堂）

レッスンごとの指導の流れ（段階的指導）

Lesson 2（事例1）	内容理解 ⇒ ワークシートを用いての本文の定着 ⇒ Story Retelling
Lesson 3（事例2）	内容理解 ⇒ ワークシートを用いての本文の定着 ⇒ 意見の発表

## 3 実践内容

事例1 Lesson 2 SLEEPING WITH LIONS

### 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークにおいて、協力しながら会話を続けようとしている。</li> <li>・JTE の質問に工夫を凝らして答えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の要約文を書くことができる。</li> <li>・本文の内容を Story Retelling することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野生動物との関わりについての文章の内容を読み取ることができる。</li> <li>・Oral Introduction を聞き取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の言動から、思いやる心の大切さについて自分の意見をもつ。</li> <li>・動名詞の用法を理解している。</li> </ul>

### (1) Part 1 の指導

ア Lesson 2 に入る際に Oral Introduction を実施し、生徒とのインタラクションを増やす。

(ア) 世界地図を配布し、英語でやりとりをしながらカラハリ砂漠の場所を確認させる。

<教師からの問いかけ例>

T: Do you know where the Karahari is?

T: Please circle the Karahari. You can talk with your partner.

(イ) カラハリ砂漠にはどのような動物が住んでいるかを生徒に推測させる。ペアで考えさせ、



エ 新出単語の意味をペアで確認させた後、口頭で意味を確認する。(英語)

(例) T: What does “asleep” mean? S: “Asleep” means ~.

オ 和訳穴埋めシート<資料1>をペアで確認させる。

カ 和訳穴埋めシートを用いて本文の内容を確認する。重要語句や表現、新出文法項目については、語句シート<資料2>を使って説明する。(日本語) <資料3>

キ 本文の音読練習をさせる。その後、音読シート<資料3>を用いて音読練習をする。

ク 教科書だけを見てサマリーシート<資料4>(P38に掲載)を完成させる。

(ア) 日本語サマリーを完成させる。

(イ) (ア)を英語サマリーに直させる。教科書の文章を活用できるような設問になるよう工夫する。

(ウ) ペアで英語サマリーを確認させる。

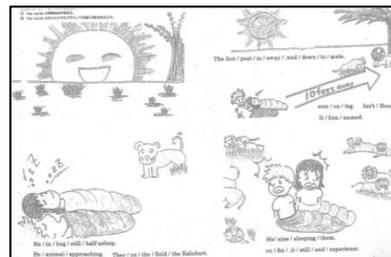
(エ) Chorus Reading をさせながら、英語サマリーを確認させる。

(オ) 英語サマリーの音読の練習をさせる。Read and Look up の形式で行う。

ケ ウで用いた絵と同じものをワークシート<資料5>にし、絵とキーワードを使って Story Retelling をさせる。

English	日本語
The sun was just (was) (set) (up).	太陽がちょうど昇ろうとしていました。
I was in my sleeping bag. / still (not) (asleep).	私は寝袋の中にいました。まだどうもしません。
Suddenly I (found) (an) (animal) (approaching) (heard) (approaching) / I (an) (animal)	突然! 動物が近づいてくる音が聞こえました。
I slowly (moved) my head / and (felt) (my) (feet).	私はゆっくりと頭をもちました!そして足の指の感覚を覚えました。
A (big) (lion) (was) (coming) (toward) (me).	大きなライオンが私の方へやって来るようになってきました。
I wanted to wake my wife Delia / but I (was) (too) (tired) (to) (move).	私は妻のデルシアを起こしたいと思いました!でも眠くて動きませんでした!
because we were now on the open fields / of the Kalahari.	私たちはそのとき開けた平原にいたからです!カラハリ砂漠の。
The lion walked past us / to a (few) (ten) (feet) (away).	そのライオンは私たちのそばを通り過ぎていきました!10メートル離れた茂みへ!
and (he) (named) (it) (Bones).	そして骨と名づけました!
Delia was (waking) (up) (now).	このときにもうデルシアはすっかり目を覚ましていました!
and (she) (said) (to) (me).	そして私にささきました!
"Bones!"	"骨!"
look at the (bone) (on) (his) (leg).	あの骨の隙間を見て。
Isn't that Bones?"	あれは骨と名づけやないかしら!
Yes.	そうです!
It was the lion!	それはライオンでした!
we named Bones.	私たちが骨と名づけました!
I had performed (a) (trick) (on) (his) (broken) (leg) / a few years before.	私が手技をやってやったのでした!その折れた脚に!数年前に!
(Turn) (my) (head).	頭を動かさず!
I saw lions sleeping around us. / mine (is) (a) (lion).	私たちの周りでライオンが眠っているのが見えました!全部で3頭!
We were in bed / with a group of wild lions!	私たちは寝ていたのです!野生のライオンの群れとともに!
Even after (five) (on) (the) (Kalahari) / for five years.	カラハリ砂漠に住んだあとでもさ!5年間!
it was still a surprising and wonderful experience.	それはなおびっくりするような素晴らしい経験でした。

<資料5>



## (2) Part 2 ~ Part 4 の指導

基本的に同じ手順で実施した。生徒の様子から、Part 2からは、ク(ア)の日本語サマリーは必要ないと考え、英語の質問に答えさせながら英語サマリーを完成させる形式にした<資料6>

(P38に掲載)。英問の意味を確認させるため、英問には補助として日本語も並記した。ケの絵(資料5)を用いての Story Retelling は、Part 1 では実施したが、残りの四つの Part はまとめて Story Retelling し、Lesson 2 のゴールとすることを生徒に伝えた。

### 基本的な授業パターン

1 時間目	導入	内容理解 (30 分)	定着活動 (10 分)	まとめ
		穴埋め和訳シートの答え合わせ サマリーシートの穴埋め (適宜説明を加える)	ペアでサマリーの確認 本文の音読練習	

2 時間目		
導 入	定着活動 (40 分)	ま と め
	英語サマリーの答え合わせ 英語サマリーの一斉音読 英語サマリーの Read and Look up *Part 1 のみ Story Retelling	

### (3) Part 5 の指導

ア Part 1 のイ～キまでと同じ手順で指導する。

イ 教科書だけを見て、英問英答のみのサマリーシート<資料 7>(P38 に掲載)を完成させる。

(ア) 英語の設問に答えながら、英語サマリーを完成させる。

(イ) ペアで英語サマリーを確認させる。

(ウ) Chorus Reading をさせながら、英語サマリーを確認させる。

(エ) 英語サマリーの音読の練習をさせる。Read and Look up の形式で行う。

ウ Story Retelling (発表)

(ア) 復習として、Part 1 で教師が書いた絵を再度見せ、教師が Story Retelling をしながら英語でやりとりをする。

(イ) Part 2～5 に関しては、グループに分かれ、各 Part のサマリーと絵を完成させ、発表させる。

具体的な指導手順

1) ワークシート<資料 8>を配布し、各グループでサマリーを完成させる。完成したサマリーは提出させて、教師が誤りを訂正する。

2) 絵を作成し、サマリーを暗唱させる。

3) グループ内で十分に練習させた後、クラス全体で発表させる。

<資料 8 >

Group 5
<i>Presentation Sheet</i>
1. Bones' leg was badly injured, and a small bone was sticking out through the skin.
2. Mark had no choice, so he cut off the bone and sewed up the wound.
3. After the operation, Mark pulled Bones under a tree with his truck.
4. Mark brought food and water to Bones for nine days.
5. Bones was recovering and becoming used to Mark's presence.
6. Bones seemed to appreciate Mark's trying to help him.
7. On the sixth night, Mark and Delia were awakened by Bones' roars as Bones waded off into the sea kaidashi.
8. By and by, Mark and Delia's base camp became the lion's playground.
9. Mark and Delia grew very close to the lions, especially Bones.
10. On occasion, Bones were fighting fiercely for his group. However, he was as gentle as a house cat when he lay outside their tent.
<b>This is the end of our presentation. Thank you for listening.</b>

生徒が描いた絵の例



発表後の生徒の感想 \* 主なものを抜粋

<よかった点・自分のためになった点>

- ・グループでよく話し合っ協力することができた。どうすれば分かりやすく伝えられるかをみんなで考えるといい案がでることが分かった。
- ・本文をいかに短くして、聞いている人に分かりやすく伝えるかを考えることがよかった。
- ・話を要約したり、声に出して読んだりして内容を深く理解することができた。
- ・意味を理解して、それを自分の言葉で話せたことがよかった。
- ・本文の内容について、絵を描きながら内容をさらに深く考えたり、なぜこんな行動をしたのかなどを想像したりすることができた。
- ・みんなの前で発表したことで、少し度胸がついた。案外楽しかった。

<反省改善すべき点・改善すべき点>

- ・自分が担当している文だけでなく、他の文章も暗唱するべきだった。
- ・声の大きさ、速度が適切でなかった。グループでの練習がもっと必要だった。
- ・ほとんど教科書の本文をそのまま写してしまった。表現力が足りないと感じた。
- ・聞いている人がもっと分かるように、話し方がもっと上手になりたい。

サマリーシートの変遷

<資料4> Part 1

日本語の質問に日本語で答え、それを英訳し、サマリーを作る。

<資料6> Part 2 ~ 4

英語と日本語で質問し、英語で答え、サマリーを作る。

<資料7> Part 5

英語で質問し、英語で答えサマリーを作る。

Lesson2 日本語 summary sheet		Sleeping with Lions	
1. マークはどんな状態?	彼は(寝袋の中に)いて、まだ(目を)開いていない。	He was in his sleeping bag with his eyes still half-closed.	
2. 彼らはどこにいるのか?	彼らは(草原の)奥の(木陰)にいた。	They were in an open field of savanna.	
3. 何が起ったのか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	He sensed an animal approaching.	
4. その雌ライオンは?	その雌ライオンは彼らのそばを過ぎて、(10分)先の(木陰)に歩いていき、1頭の大きい雄ライオンの(そば)に寝た。	The female lion walked past them to a bush ten feet away, and lay down next to a big male lion.	
5. マークは何とささやいたか?	「あのライオンの(目)は、あれは(目)だ。」 "Look at the eyes on that lion's face!" "Is it the lion?" (Mark whispered.)		
6. そのライオンは?	そのライオンは、彼らが(目)と(目)をみたら、 "That is the lion they named 'Bones'." It was in the bush named 'Bones'.		
7. マークが目にしたのは?	彼は彼らの周りに(動物)の(目)をみた。	He saw four lions sleeping around them, seven in all.	
8. このことは?	(10分)後、彼は(目)を開いて、(目)をみたら、 "Even after having lived on the savanna for a few years, it was still a surprising and wonderful experience."		

Lesson2 part3 summary sheet		Sleeping with Lions	
1. マークはどこで寝たのか?	彼は(寝袋の中に)いて、まだ(目を)開いていない。	Mark first meet Bones?	Mark remembers it was during his second year of his stay on the savanna of their stay.
2. マークが寝たとき、彼は?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	How was Bones standing when Mark happened to see him?	Bones was standing over the body of an African deer that seemed to have been killed months before.
3. 彼は何をしようとしましたか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	What was Bones trying to eat?	He was trying to eat the old-brown skin of the dead animal.
4. マークは何を見たか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	What did Mark find?	Mark found that Bones's eyes were his face, hanging skin.
5. マークは何とささやいたか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	What happened to Bones every time he walked?	Bones fell head-to-toe against.
6. 何が明らかになりましたか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	What was clear?	It was clear that he was sleeping.
7. マークは何を感じたか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	What kind of feelings was Mark faced with?	Mark was faced with a dilemma: whether he should try to catch his life or not.
8. マークは何を後悔しましたか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	What did Mark think that he might later regret?	Mark thought he might later regret not having helped Bones.
9. マークは何を決めましたか?	彼は(動物)が(近づいてくる)ことに気づいた。	What did he decide?	Finally, he decided to save Bones' life.

Lesson2 part 5 summary sheet		Sleeping with Lions	
1. In what year of their stay did the rainy season not come?	It was during their year.	2. Where did many animals wander and why?	They wandered toward the edge of the open savanna to look for water.
3. Why did Mark and Della worry when the animals wandered toward the edge of the reserve?	Because there was a danger of them being killed by hunters outside the reserve.	4. Were they surprised that Bones came to their home camp that day?	Yes, they did.
5. What number of the ear tag did he have?	He had ear tag "001."	6. In two months, was there any rain?	No, there wasn't.
7. What did Mark and Della decide?	They decided to search for Bones.	8. What was the name of the friend who called on the radio?	His name was Doug.
9. Where was Doug calling from?	He was calling from a forest outside the reserve.	10. What happened to Bones in the end?	He was shot by some hunters.
11. What's your favorite animal? Why?	My favorite animal is a big dog, especially a German shepherd. Because they are cool and clever.	12. What stories have you read or movies have you seen about animals?	I have seen "Ice age" and "Ants". Because of this story, I had interested in savanna.
13. Have you ever taken care of an injured or sick animal or pet?	No, I haven't. But I want to try it when I have a chance.	14. What do you think of Mark and Della?	They are one of the greatest people I know. They had a good job.

(4) Lesson 2 を指導して感じた課題

このレッスンでは、生徒が英語で理解した内容を基に、英語で Story Retelling することを目標としていたため、おおむね目標は達成できた。発表という活動を目指していたため、和訳穴埋めシートを内容理解の助けにしたつもりだったが、和訳穴埋めシート<資料1>に日本語訳があ

るため、訳があればよいという考えが強い生徒は、活動に積極的に取り組めていない場面も見られた。しかし、和訳穴埋めシートを使うことで、時間を有効に使うことができ、定着させるための活動にも時間をかけることができた。

サマリーシートは前頁のように、段階を追って難易度を上げていった。初めは、日本語サマリーを作成する際に、和訳穴埋めシートを見ている者が多かったので、教科書のみを見てシートを完成させるように指示をした。そうすることで、何度も英文を読み返させることができた。生徒が活動に意欲的に取り組んでいたため、日本語でのサマリーをなくし英問英答をしながら英語サマリーを完成させる形に変更した。Part 2～4 は日本語の質問もヒントとして載せていたが、Part 5 では、英問のみを載せておき、それに英語で答える形式のサマリーシートにした。

発表の理想的な形としては、あらかじめ書いて準備せずに、即興で本文の内容を簡単な英語で話すことであると考えられる。そのためにはインプット、インテイク、アウトプットを繰り返す必要がある。授業中にそのことを意識して指導してきたため、ほとんどの生徒が自分の分担の部分は自信をもって発表できていた。しかし、「ただ英文を言う」という形になってしまっている生徒も多く、自分の言葉として発話する、相手が分かりやすいように発話する、というような視点での指導が不足していた。表現活動をする際の「相手意識」をもたせるような指導が必要であると感じた。

このような課題を解決できるように、Lesson 3 では、「筆者の意図や心情の動き」や社会的状況などを含めて本文が伝えようとしていることを意識させながら、英語で理解させ、英語で自己表現をさせる small output を多くさせたいと考えた。

## 事例 2 Lesson 3 FREE THE CHILDREN

### 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークにおいて、相手の伝えたいことを理解しようとしている。</li> <li>・JTE の質問に工夫を凝らして答えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークで、本文の内容に関しての英問英答ができる。</li> <li>・読んだことに基づき、児童労働についての自分の意見を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童労働についての文章の内容を読み取ることができる。</li> <li>・Oral Introduction を聞き取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分詞の用法を理解している。</li> <li>・児童労働に関して自分の意見をもつことができる。</li> </ul>

### (1) Lesson 3 の Oral Introduction の内容

ア Lesson 3 に入る際に Oral Introduction を実施し、生徒と教師、生徒同士のインタラクションを増やす。

(ア) チョコレートとサッカーボールを見せながら、生徒が好きなチョコレートの原料であるカカオの生産が世界一である国と、生徒の好きなサッカーのボールの生産が世界一である国をペアで推測させる。

(イ) 答えはコートジボワールとパキスタンであることを伝え、どちらの国でも、誰がそれらを

生産しているかをペアで考えさせる。

- (ウ) 生徒にとって身近なチョコレートやサッカーボールは、子どもたちがその生産に関わっていることを伝える。
- (エ) 子どもたちが学校に通えない現状や児童労働の実態について、スライドを用いて、英問英答を交えながら説明をする。その後、教師の話の内容について、どのような感想をもったかをペアで伝え合わせる。

### Oral Introduction で用いた説明に用いたスライド（抜粋）

<p><b>What is "Child labor"?</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Children work like <b>adults</b>.</li></ul> 	<p><b>Child labor is different.</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Work about <b>12 hours</b>, sometimes <b>15 hours</b>.</li><li>• Paid low salary because they are children.</li><li>• Bad for children's development.</li><li>• No break.</li><li>• Lots of stress.</li><li>• No education.</li></ul> 	<p>A day of Santos (AM)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>5:00</b> wake up and go to coffee farm on foot.</li><li>• <b>7:00</b> preparing breakfast for adults in the coffee farm.</li></ul> <p>Go to river to collect water and go back to eat breakfast. →long way to walk and water is heavy to carry. Clean the dishes after breakfast.</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>8:00</b> work in the coffee farm. Take care of young plants, watering the plants and so on.</li></ul>
<p>A day of Santos (PM)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>12:00</b> prepare for lunch, eat, and clean the dishes.</li><li>• <b>17:30</b> go back home.</li><li>• <b>18:30</b> helping cooking dinner, eat, clean the dishes.</li><li>• <b>20:00</b> go to bed.</li></ul>	<p><b>What about other job? How much can they earn?</b></p> <p>1. Working for a garbage company for 8 hours</p>  <p>¥70~120</p>	<p><b>Listening to my talk, what do you feel and think?</b></p>

### (2) Part 1～5の指導

- ア 新出単語の意味をペアで確認させた後、口頭で意味を確認する。用法が難しいものは、分かりやすい例文をいくつか提示し、意味を理解するだけでなく、実際にその語を用いて英文が作れるように指導をする。
- イ 本文を日本語で確認する場合は、生徒が誤解したり、つまづいたりしそうな文のみにする。重要語句や表現、新出文法項目等については、語句シート<資料9>を使って説明する。
- ウ 本文の定着のためにフレーズチェックシート<資料10>を用いた活動をする。左側には日本語を、右側には英語をフレーズごとに記入できるようなワークシートを作成する。日本語は印刷しておき、英語は生徒に記入させる。エの活動につなげるため、読みの練習もさせる。
- (ア) 教科書やノート等を見ないで、一人で英文を書かせる。
- (イ) 教科書を見ながら、自分で英文を確認させた後、ペアで確認させる。
- (ウ) 教師が日本語を読み、それに対応する英文を **Chorus Reading** させることで、英文の確認をさせる。
- (エ) フレーズチェックシートを用いて、ペアで読みの練習をする。徐々にワークシートを見る回数を減らすように指導する。
- エ **Summary and comprehension sheet**<資料11>を用いた活動をする。本文の理解を深め、定着を図るために、上段は穴埋め形式で本文のサマリーを完成させる活動、下段は生徒同士で英問英答させる活動にする。裏面にも同じものを印刷しておく。
- (ア) 個人で **Summary** パートを完成させる。 **Chorus Reading** をさせ、答えを確認する。

(イ) ペアで、A役、B役を決めさせる。A役は何も書き込みのない裏面を見ながら要約を口頭でB役に伝えさせる。B役には書き込みのある表面を見ながら相手の要約が合っているかを確認させる。

(ウ) Comprehension パートの英問英答をペアで行わせる。A役が質問し、B役に答えさせる。途中役割を交換させる。

(エ) 教師が英問を読み、全員に一斉に答えさせることで、答えの確認をする。

(オ) 英問の正答を、ワークシートに記入させる。

<資料 11> Summary and comprehension sheet

<資料 9> 語句シート

<資料 10> フレーズチェックシート

FREE THE CHILDREN

Lesson 3 Part 1

11 one morning: 朝(朝)

as usual: (いつも) (通常)

12 I didn't make it past the front page. ⇒ 前ページまで進めなかった。

14 catch one's eye: ...の目を惹きつける。

15 It was a shock.  
the same ~ as ... ⇒ ...と同じくらい

Twelve, about the same age as I was. ⇒ 12歳、4年前の自分と同じくらい

111 be forced to ~: 強制される

free (形) 自由の、解放された

against (前) 反対に、(for (前)) 反対に

114 he was shot dead. ⇒ 銃で射殺された

S+(shoot)+O+C: Oを撃ってCの状態にする

※shoot(射つ)(射つ) 撃つ

115 Some people believe he was murdered by someone who had warned ...  
warn(警告) to stop his activities. ⇒ 警告して活動を止める

※warn+人+to do ~: 人に何かを警告する

P33

12 I found a few newspaper articles reporting the problem.

13 One A..., another B. ...はA, もう一つはB

One was about children younger than me working hard in coal mines.  
children (子供) were younger than me and working hard in coal mines.

Another mentioned children injured or killed by explosions at fireworks factories.

116 Why was nothing being done to stop such terrible things?  
〜を止めようとしていないのか

17 As ~ (後) ~ (後)

18 thoughts(名) 考え

110 I came home feeling down.  
come ~ing: ... (後)

FREE THE CHILDREN ( part1)

	①	②	③
1 いつものように(2)			① as usual
2 大きな見出しが私の注意を引いた(6)	✓	○	② one big headline caught my eyes
3 私とはほぼ同じ年だった(7)			③ about the same age as I was
4 私はその話をほとんど信じられなかった(4)	○		④ I could hardly believe the story.
5 無理やり働かされた(4)			⑤ was forced to work
6 児童労働に反対する世界規模のキャンペーン(6)			⑥ a worldwide campaign against child labor.
7 児童労働の問題を解くために(7)	✓		⑦ to solve the problem of child labor
8 その問題を伝えていくいくつかの新聞記事(7)	○		⑧ a few newspaper articles reporting the problem.
9 花火工場での爆発で負傷したり死んだりした子ども達(3)			⑨ children injured or killed by explosions at fireworks factories
10 なぜ何も行われていないのか(5)	○		⑩ why was nothing being done?
11 中産階級の地域(2)			⑪ middle-class neighborhood
12 世界の向こう側(7)			⑫ on the other side of the world
13 自分自身の世界(3)	✓		⑬ my own world
14 私は落ち込んだ気分でした(5)	✓		⑭ I have been feeling down

書き込み用

SUMMARY Part 1

1. Play "rock-paper-scissors" with your partner. Decide A and B.

2. "A" person: read the summary aloud within 1 minute. (Do not write the answer.)

3. "B" person: listen to what your partner said.

4. If time is over, "B" person try it within 1 minute.

One morning in April 1995, one big (headline) in the newspaper caught my eye. The title was "Child Laborer, Boy, 12, Murdered." I was too (shocked) to believe the story. The 12-year-old boy was (forced) to work at a carpet factory. After he was free, he started a worldwide (campaign) against child labor. Some people believe that he was murdered by someone who had (warned) him to (stop) his activities. Why was (nothing) being done to stop such terrible things?

COMPREHENSION Please switch the role after Q3.

1. This time, "A" person: ask the questions below.

2. "B" person: answer them in English. Answer in full sentences.

3. When you finish, write down the answers by yourself.

1. When did Craig read the story about the child laborer who was murdered?  
He read it in April 1995.

2. After Iqbal Masih was free, what did he start?  
He started a worldwide campaign.

3. What day of the week was Iqbal shot dead?  
He was shot dead on Sunday.

4. After school, where did the author go and what did he do?  
He went to the public library to study the problem of child labor.

5. What kind of area did the author live?  
He lived in the middle-class neighborhood.

6. How often do you read a newspaper?  
I read it every day.

オ 本文についてさらに深く考えさせるため、筆者の思いが含まれる箇所、または心情を理解させたい箇所などに関して質問する。ワークシートを配布し、書いて答えるようにする。この活動が「Lesson 3のまとめの活動」につながるように工夫する。

各 Part での質問

Part 1 Why did Craig's own world seem a little darker?

Part 2 Craig's group made a presentation to other students. What do you think they told through the presentation?

Part 3 According to the textbook, Craig's group learned that knowledge was their key. What does this mean?

Part 4 Mother Teresa said to Craig, "The poor will teach you many things." What does this word mean? What does "many things" mean?

Part 5 According to the textbook, "the change starts within each of us ." You have read Lesson 3. Does the change start within you?

## 基本的な授業パターン

1 時間目			
導 入	内容理解 (30 分)	定着活動 (10 分)	ま と め
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句シートを使用しでの説明</li> <li>・ 適宜英語英答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フレーズチェックシート</li> <li>・ フレーズごとの確認</li> </ul>	

2 時間目			
導 入	定着活動 (40 分)		ま と め
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フレーズチェックシートの音読 (ペア)</li> <li>・ Summary and comprehension sheet</li> <li>・ 考えを深めるための英問英問</li> </ul>		

### (3) Lesson 3 のまとめの活動

Lesson 3 で学んだことのまとめの活動として、児童労働について考え、自分の意見を発表させる活動を実施した。レッスンの導入で用いたスライドを再度利用した。Oral Introduction は現状を伝えるために作成したスライドだったので、メッセージを伝えるようなスライドや本文で触れたことに関するスライドを追加した。まずはペアで、次に4人のグループで発表させた。発表の際、考えを補うために絵を用いてもよいとした。発表の後は、聞いていた生徒には必ず感想を述べさせた。

ア 英問英答をしながら、スライドを見せる。

イ スライドの最後で、“After listening to the teacher’s talk, what do you think about child labor?”という質問をし、児童労働について自分の考えをまとめさせた。

ウ まずはペアで、次に4人のグループで発表させる。

エ 相手の発表に対して感想を述べさせる。

追加したスライドの例

<p><b>Do you want to escape if you were a child labor? Is it possible?</b></p> <p><b>If they escape, their parents might be in trouble.</b></p>	<p>Q. What do they need for change?</p> <p><b>They need knowledge.</b></p> <p><b>If they know many things, they may come up with a good idea to change the situation.</b></p> <p>Q. How do they get knowledge?</p> <p><b>Education is the key.</b></p>	<p><b>Are you still children?</b></p> <p>You may be in <b>between children and adults.</b></p> <p>But soon, you will be adults.</p> <p>You can't be onlookers(傍観者).</p> <p>Learn about the fact.</p> <p>You have to take an action to stop child labor.</p> <p>And you have to be a smart consumer to buy things which isn't made by child laborers.</p>
---	--	--

#### 生徒の意見の例（原文のまま）

- Perhaps I'm using goods which were made by working children. I can't use them. If people know the fact, we can save the children. I want to help the children. But I don't understand how I can save them. I think people all over the world should think about how to do for them.
- I think we should do something for help and they need help. We come to school every day and we study with many friends. I thought it is usual thing. But I know it is very happy thing. So we should thank our parents and people around me. I am happy, so I want to share my happiness with children who work every day.

#### (4)Lesson 3 を指導して感じた課題

このレッスンでは、最終的に生徒が、児童労働に対して本文で学んだことをもとに、英語で意見を述べることを目標としていたため、おおむね目標は達成できた。発表に向けて、フレーズリーダーディング、口頭でのサマリー、英問英答を準備段階として実施した。

生徒は、英語で内容に関する質問をすると単語である場合もあるが、何とか英語で返答ができるようになりつつある。しかし自信がない、恥ずかしいという気持ちがなかなか払拭できず、積極的に発言できない生徒もいる。間違いを恐れずに発言をする雰囲気を作っていく必要がある。

また、筆者の心の動きを問う質問、例えば Part 1 で “Why did Craig's own world seem a little darker?” と質問したところ「(筆者が)目を閉じたから」「夜になったから」という解答があった。言葉の意味は取れていても実際にどういうことを言っているのかを理解していない生徒がいることが分かった。本文だけでなく社会的状況などを含めて本文や筆者が伝えようとしていることは何なのかを考えさせる必要があると感じた。

最後に、児童労働の過酷さを再確認させ、そのことに対して生徒に考えさせるための活動を行った。生徒が英文を書く際のヒントになるよう、スライドを見せながら、習った単語や易しい表現を使って説明を加えたり、多くの質問をしたりした。自発的に意見を書こうとする姿が見られ、中には自分の伝えたいことが英語で言えないもどかしさや、自分の英語力の足りなさを痛感している生徒もいた。周囲の生徒に「○○って英語で何て言えばいいの？」など尋ね、協力しながら取り組む生徒も多くいた。また、自分が悩みながら意見を書いたため、相手の意見を聞きながら「自分だったら」という視点で考えていたようである。

意見発表というゴールを常に意識して段階的な指導を行ってきたため、何とか全員が意見を発表することはできた。生徒に読んだことについて考えさせ、それを英語で伝えさせるということに重点を置いていたので、発表内容に関しては、指導が不足していた。例えば、自分の思うことは伝えることができても、なぜそう思うのか理由まで述べられない生徒もいた。また、英語としての正確性も不十分なものが多かった。生徒の「思いを伝えたい」という意欲は育むことができたが、「どのようにして」という技術的な部分まで指導できなかったことが課題である。準備段階での指導を見直す必要があると感じている。

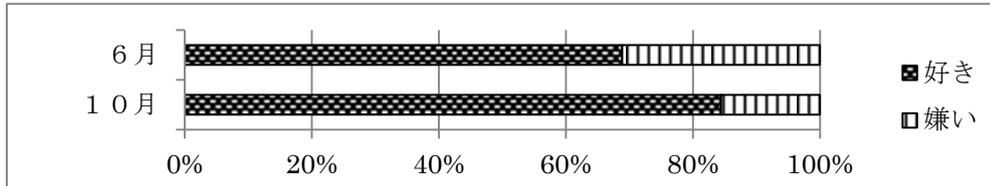
## 4 検証とまとめ

### (1) 事後アンケートによる検証

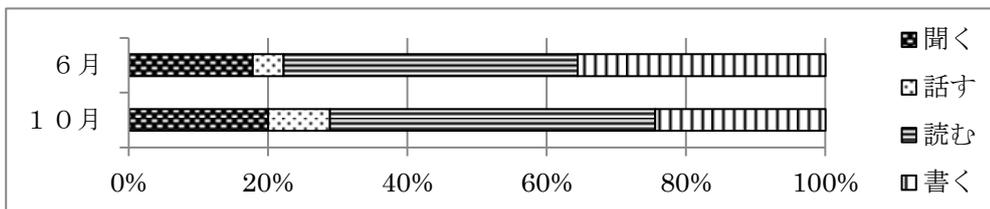
これまでの活動を通して生徒の意識がどのように変化したかを確認するために、同じ45名を対象に、事前アンケートと同じ内容のアンケートを実施した。

#### ア アンケート結果

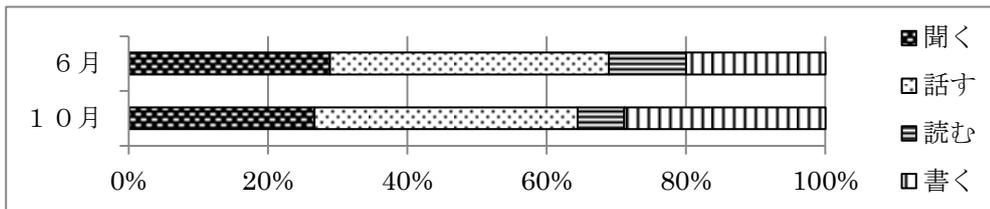
##### 1 あなたは英語が好きですか？



##### 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なことは何ですか？

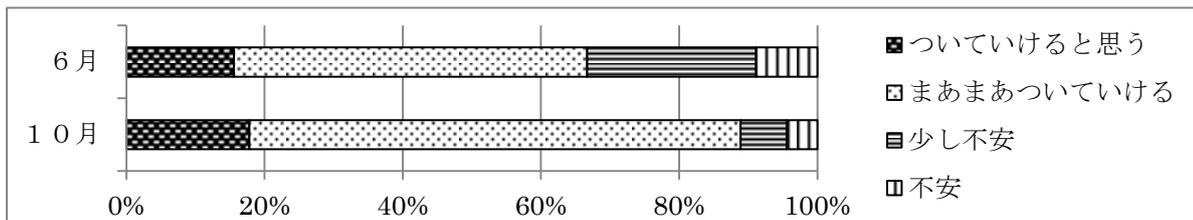


##### 3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なことは何ですか？

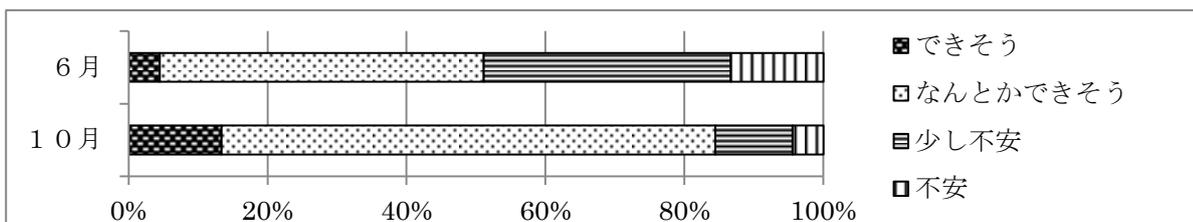


##### 4 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために授業を英語で行うことについて、あなたはどのように思いますか？

①先生がたくさん英語で質問したり、説明したり、指示をしたりすることについて。



②自分が英語で質問に答えたり、ペアワークをしたり、発表をしたり、意見を書いたりすることについて。



## イ アンケート分析（6月と10月の比較）

アンケートを比較すると「あなたは英語が好きですか」の質問では好きな生徒がやや増加し、嫌いな生徒が減少した。「読む」ことや「書く」ことを得意とする生徒、「聞く」ことや「話す」ことを苦手とする生徒は依然として多いままであり、大きな変化にはつながらなかった。

教師が英語を「話す」ことへの不安や生徒達が英語を話すことへの不安が減少しているのは、常に英語でのインプットを意識して授業をしてきた成果ではないかと考える。4①で、「ついていける」「まあまあついていける」と回答した理由としては、「質問を何度か繰り返し言ってもらえるから」「先生の言葉の中で熟語を覚えたりできるから」「分かりやすい単語や知っている単語が多いから」などが主なものであった。「少し不安」「不安」と回答した理由としては、「少し話すスピードが速い」「何を言っているか分からない時がある」などが多かった。

また、4②について、「ついていける」「まあまあついていける」と回答した理由としては、「自分で言いたいことを英語で伝えられる力を付けることも大切だと思うから」「英語での受け答えができるようになるから」「英語で取り組むことで新しい発見がありそうだから」などが主な意見だった。「少し不安」「不安」と回答した理由としては、「自分で英文を作成するのが苦手だから」「言いたいことを英語でまとめられないから」などの意見があった。これらの意見からも、英語での活動に取り組む意欲や姿勢は高められたのではないかと考える。

## (2)まとめ

様々な活動を工夫して段階的に取り入れることで、生徒ができるだけ多くの英語に接し、訳読に頼らず英語を英語のまま理解したり、生徒同士が意見交換をしたりしながら、最後に発表ができるようになるよう指導を心掛けた。また、視覚教材を用いて既習の表現で繰り返し説明したり、質問したりすることによって内容理解を深められるよう留意した。

発表に関しては、二つのレッスンとも、最終的な目標を生徒にあらかじめ示すことで、生徒は目標を意識して授業中の活動に取り組んでいた。発表は苦手と感じていた生徒でも、発表後の達成感から次回への意欲を話す者もいた。また、他者のよい点を知る機会にもなったようで、ペアワークやグループワークにより積極的に取り組むようになった。

「訳すことが理解すること」と思っている生徒もいるが、授業中に、生徒の興味・関心を引いたり、意欲を高めたりするような英語での活動を行っていくことで、和訳がゴールではなく、英語を運用できるようになることが大切であることを生徒に意識させることができたのではないかと考える。ある生徒が「前は相手が英語で言ったことを頭の中で日本語に直して、自分が言いたいことを日本語で考えて、それを英語に直して、それから話していたけど、今は相手の英語を聞いたら、日本語でなく英語で考えるようになったよ。だから、前より早く言えるようになった。」と嬉しそうに話していた。活動の際の生徒の生き生きとした表情や一生懸命に工夫して取り組む姿勢を見て、教師として教えなければならないことは何なのかを改めて考えた。授業中に何か活動を実施することが求められているのではなく、重要なのは、どのようにその活動を実施するのか、なぜその活動を実施するのかであり、そのことを教師が深く考えることで、活動の効果は高まるのだと感じている。